

# ダニエル・カールの

# 消防団 たずねあるき

第4回 北海道札幌市

## はじめに

今回の消防団たずねあるきは、本州を飛び出して北海道の札幌市にうかがいました。

札幌というと皆さんどんなことを思い浮かべますか。雪祭り、時計台、ラーメンそれからカニなどいろいろありますよね。また、かつて冬季オリンピックが行われ、スキージャンプ競技で、日本が金、銀、銅の三つのメダルを獲得したことは、今も折りに触れてテレビなどで紹介されています。札幌市は、そのオリンピックを機に国際的な観光都市になったとも言われているそうです。

東京から札幌へはずいぶん距離がありますが、飛行機の便がたくさんあり、とても便利に感じます。オラも何度か札幌にはおじゃましていて、今回も飛行機に乗って、電車に乗って「もう着いたの？」という感じでした。

地理的には、北海道のやや西部に位置し、面積は約1,121km<sup>2</sup>で約190万人の人々が暮らしています。中心部はビルがたくさん建っているまさに大都会です。でも、なぜだか広々とした、ゆったりとした感じがします。

北の大地に降り立つと、さすがにだいぶ涼しかったですが、暑がりのオラには非常に快適で

す。そんなこともあって札幌は大好きな場所のひとつです。もちろん、真冬の厳しさはものすごいのですが、そんな環境の中でも元気に活動しておられる消防団員の皆さんからは、どんなお話がうかがえるのでしょうか。

## 札幌市の消防

札幌市の消防組織について、お話しいたします。

常備消防は、1消防局、10消防署で、消防職員1,778人からなっています。

消防団は、10団あり、10本部、72分団で、消防団員数1,972人から組織されているそうです。

その中で、今回お話をうかがった東消防団は、昭和47年に札幌市の政令都市の移行に伴って編成替えされ、現在、人口約255,000人の地域を守るために活躍しています。管轄内には、丘珠空港や北海道の文化遺産である札幌ビール園などがあり、特に北東部ではタマネギ栽培が盛んで、日本のタマネギ発祥の地として全国的にも知名度が高く、消防団員も後継者として伝統を守っています。

また、平成17年には永年の消防団活動や業績が認められ、大都市の消防団が受賞するこ



前列左から東田消防団長、ダニエル、菊地消防署長、後列左から松村班長、富士池部長、岩田本部長

とが稀である日本消防協会の特別表彰「まとい」を受賞しています。

**ダニエル** 札幌は大好きな町のひとつです。

**東田団長** ありがとうございます。ところで、寒くはないですか。

**ダニエル** オラは暑がりなので、むしろ快適です。

札幌というと、雪祭りやラーメンで有名ですが、カニ、ウニなどの海の幸がおいしくて、それも大好きな理由のひとつです。

**東田団長** そうですか、確かに札幌にはおいしい海の幸がありますが、実は札幌市自体は海に面していないのです。

**ダニエル** えっ、そうなんですか。気づかなかったなあ…

またひとつ日本のことを覚えました。

**東田団長** そうですか、でも、ダニエルさんはお仕事で日本全国を飛び回っていらっしゃるから、我々よりよっぽど日本各地のことについてお詳しいでしょう。

**ダニエル** 確かに、あっちこっちにおじゃましていますが、どこの町に行っても、何回か訪れている場所でも、初めて聞くお話が必ずあ

ります。今日もさっそくひとつお聞きしました。(笑)

**東田団長** そうですか。今日は消防団のお話とともに、なるべくたくさんの「初めての話」をご披露できるといいのですが…

**ダニエル** よろしくお願ひします。札幌通を目指してがんばります。(笑)

## 札幌市東消防団

約190万人が暮らす北の都の札幌です。その大都市を守っている札幌市消防団の中から東消防団についてお話をうかがってみます。

**ダニエル** 札幌市東消防団について教えてください。

**東田団長** 定員が299名で264名の実員がおりまして、その中に女性消防団員が33名います。1本部10分団の体制となっています。

**ダニエル** 主にどんな活動をしているのですか。

**東田団長** 災害時の活動としては、消防署と連携して各種災害防御活動を実施しています。

# 消防団たずねあるき

目新しいところでは、災害時の連絡手段として、通常の電話網のほかに携帯電話のメール機能を活用して、管轄の消防団員の携帯電話に災害の発生場所や種別が送信される方法をとっています。

**ダニエル** なるほど、これだけ携帯電話が普及しているのですから、有効な手段ですね。そういう取り組みが活かされているわけですね。

**東田団長** はい、平成21年6月25日の正午過ぎに管内の丘珠地区で発生した火災の際には、タマネギ栽培に従事している団員がこのメールなどで火災発生を覚知して、12名が直ちに現場に駆けつけ活動に当たりました。

**ダニエル** そうですか。災害は無いのが一番ですが、何か発生した時には、心強いシステムですね。

**東田団長** そうですね。

平常時の活動としては、毎年6月に開催される消防総合訓練大会という大会がありまして、団員の気力・体力を練成して、消防技術の向上と士気高揚を図るため、小隊訓練、消火・救助・救護訓練を実施しており、広く東区民にその成果を披露しています。

**ダニエル** なるほど、一般の方に披露するというのは、消防団のPRのためにも重要ですよな。

**東田団長** はい。それと、この大会は、事前準備から運営まで全てを消防団員が担当しています。

**ダニエル** まますますチームワークが良くなりますね。

**東田団長** そうですね。団結力と活動の自主性をさらに高めることに成果を上げています。

**ダニエル** 北海道ならではの活動は何かありますか。

**東田団長** 毎年12月中旬から2月中にかけては、降雪のために消火栓が埋没してしまいますので、除雪を行い消防水利の確保に努めています。

**ダニエル** それは大変ですね。でも、そういう消防団の活動が地域の安全のためには、なくてはならないものですね。

**東田団長** 全ての団員がそう考えており、一生懸命に活動しています。

その他にも、高齢者世帯への防火訪問や応急手当の普及啓発をはじめ、火災予防運動の一環としての街頭キャンペーンや、歳末特別警戒時のパトロールなどさまざまな活動を行っています。

**ダニエル** 消防基金の公務災害防止研修を実施されたそうですね。

**東田団長** はい、今回は「健康セミナー」を消防基金と共催で実施しました。

健康セミナーでは、日本赤十字社北海道支部の藤澤講師から「生活習慣病」について講義を受けましたが、これらの疾病が要因となって公務災害につながる恐れもあり、特に団員の高齢化に伴い健康管理や健康増進は、今後ますます重要なことになるので、非常に役に立つ知識を習得できたと考えています。

東消防団では、高度な災害活動対応力の習得を目的として、分団単位で消防署・所と連携した実践的な訓練を実施しておりますが、分団長を安全主任者に副分団長・部長を安全管理者に指定し、団員の安全管理の徹底と事故防止に努めているところであり、これは実災害においても実践しているところです。

今後も公務災害防止のために各種研修を行

## 消防団たずねあるき



熱心に耳を傾けている受講者



講演風景

い、災害現場や訓練での事故防止を図っていき  
たいと考えています。

**ダニエル** そうですか、消防基金では公務  
災害防止研修事業に力を入れているそうので  
、どんどん研修をしてください。

ここでご出席の消防団員の方にお話をうかが  
いましょう。

レディファーストで、まずは女性消防団員の  
方からうかがいます。

**ダニエル** 消防団に入団されたきっかけを  
教えてください。

**富士池部長** 平成3年に女性消防団が募集さ  
れることになりました。私は当時、地元のママ  
さんソフトボールチームに参加しておりまし  
て、役員を務めていました。そんなことから、  
区民センターなどによく顔を出して、

ある日、入団を勧められ入団することにしまし  
た。

地元には、他にママさんバレーのチームなど  
もあったのですが、ソフトボールのチームが一  
番元気がいいので消防団にむいているだろうと  
のことだったそうです。

**ダニエル** 人生ってそうですよね。いろい  
ろなことが何気なく決まっていくような…

**富士池部長** 「とりあえずやってみようか」  
という気持ちで入団しました。

**ダニエル** それで、いかがでしたか。

**富士池部長** 大変でした。まったく知らない  
世界でしたので。一番大変だったのは、入団  
式で「気をつけ」とか「右向け右」とかいろ  
いろやらなくてはならなくて、訓練を受けた  
のですが、全然、上手く行かなくて、がっかり  
しました。それでも当時いた5人のメンバ  
ーと訓練が終わった後も自主練習をしてが

# 消防団たずねあるき

ばりました。

**岩田本部長** 東消防団は、札幌市内では女性消防団の採用が早い方でしたし、大変だったと思います。

**ダニエル** 富士池部長は、まさに女性消防団員のリーダーですね。

**富士池部長** リーダーというか…、みんなに助けられて…（笑）、なんとかやっています。

**ダニエル** 松村班長はいかがですか。

**松村班長** 私の場合は、兄が消防団員でして、地域のために活動している話をいろいろ聞いておりました。そんなこともあって、私も何か地域に役立てればと考え入団しました。

**ダニエル** やはり、最初は苦労されましたか。

**松村班長** そうですね。何もわからなかったの、いろいろと大変でした。でも、その後、消防学校に入校して2日間ほど、ひととおりのことを教えていただきました。

**ダニエル** それはそれで大変ですね。

団長や本部長に今さら入団したきっかけをうかがうのは失礼かも知れませんが、せっかくの機会ですのでお願いします。

**岩田本部長** 私の場合はあまり立派な動機ではなくて、少々お話ししづらいのですが…（笑）。

ちょうど30歳になった頃に入団しました。当時、私は若かったこともあって、地域の活動にいまひとつ素直に参加できないタイプの人間だったのですが、かつて実家が火事になったことがありまして、父親に「昔、世話になったのだから消防団だけは断るな」と言われていたこともあり、また、当時の団長が直接、勧誘に来てくださったこともあり入団することになりました。

**ダニエル** でも、入団してからは、地域と

のつながりの中で、地域を守っていらっしゃるわけですね。

**岩田本部長** そうですね。団長からは叱咤激励をいただき、他の団員に助けられながらなんとかやっています。

**ダニエル** 30歳で入団されたというのは、当時としては遅い方でしたか。

**岩田本部長** そうだと思います。でも当時は定員に空きがなくて、消防団に入りたくても入れないという人がけっこういました。入団することで、一人前の大人と見られるという感じで、息子が消防団員になるとお赤飯を炊いてお祝いするような時代でした。

**菊地署長** かつて、消防団員は全国で200万人以上いましたから、本部長のお話のような時代があったわけです。

**ダニエル** そうですか。今とはだいぶ違う状況だったのですね。

**東田団長** 岩田本部長は、ずいぶん謙遜してお話しされていますが、本部長と言えば消防団の要です。今は、立派に務めていただいています。

**岩田本部長** ありがとうございます。でも、かつての自分を思い返すと恥ずかしいことばかりです。

**ダニエル** 本部長として、いろいろとご苦労もあるでしょうががんばってください。

**菊地署長** 団員数の減少など消防団を取り巻く状況には厳しいものがありますが、そんな中で東田団長は消防団員歴50年を超えるベテラン中のベテランです。

**ダニエル** 50年ですか！すごいですね。

**菊地署長** 消防団員の制服の左袖の上部についているマークは、10年につき1本ずつ増えるのです。これが5本ある団員さんには、

## 消防団たずねあるき

なかなかお目にかかれませんか。

**ダニエル** そうでしょうね。それでは東田団長、お願いいたします。

**東田団長** なにぶん昔のことで…（笑）。

先ほど岩田本部長のお話にもありましたが、当時は消防団員を公募するという方法はとられていなくて、むしろ、選ばれた人が入団するというような状況でした。私の場合は、たまたま退団された方が出たので、その後任という形で入団しました。

入団した頃の仕事のひとつには、はしご乗りがありました。

**ダニエル** あの、高いはしごの上でいろいろなポーズをとるものですね。そのために、若い人材が必要だったのでしょうか。

**東田団長** そういう意味もあったのかもしれませんが。

**岩田本部長** はしご乗りと言えば消防団の花形です。皆があこがれたものです。

**ダニエル** そうでしょうね。カッコいいですよ。

**東田団長** 大通り公園や中島公園などいろいろな場所で演技を披露しました。

**ダニエル** やはり、若い人が向いているでしょうね。

**岩田本部長** 若いばかりでなく、強靱で運動神経が良くなければなりません。

**ダニエル** 確かにそうでしょうね。ひとつひとつのポーズもなかなか難しそうですし、しかも高い所で演技をするわけですからね。

その後はいかがでしたか。

**東田団長** 私の場合、入団してから28年間、一番下位の階級である団員でした。28年間は言わば下積みの時代で、機関員として活動しておりました。ひとつの役割にそれだけ

長く関わるということは、最近では考えられません。良い経験だったと思います。

以前から話に聞いてはいましたが、消防団を取り巻く環境は大きく変化していたんですね。その大きな変化を体験しながら消防団員として活動してこられた団長や本部長のお話はとても興味深く、また言葉にはされなくても、さまざまなご苦労があることが感じられます。

**ダニエル** 消防団員として活動される中で、どのようなご苦労がありますか。

**松村班長** やはり、皆さん仕事や家庭をお持ちですから、それらと消防団活動の両立には苦労されています。活動するにしても、なかなか全団員がそろって行うことは難しいです。

消防団活動に対する理解が得られ、いつも全団員がそろって活動できる環境ができればいいなと思っています。

**東田団長** 最近は、いわゆるサラリーマン団員が多いので、行事などは相当前から計画をして、土曜日や日曜日に行くことが多いです。そんなことで、消防署の皆さんには、ご迷惑をおかけしています。もちろん、災害活動には土曜日も日曜日もなく出動するわけですが。

**ダニエル** 消防団員の皆さんもそれぞれの生活がおありですから、スケジュール調整が大変でしょうね。

**岩田本部長** そういう情報をなるべく早めに団員に伝えるために、年度当初に1年間の行事予定を知らせています。

**ダニエル** 昔はそういうことはしていなかったのですか。

## 消防団たずねあるき

**岩田本部長** 私の若い頃には、1年間の行事予定などは示されていませんでした。

**ダニエル** 農業や自営業の方が多かったから、多少は時間的に余裕があったということですかね。

**岩田本部長** それもあると思います。

**ダニエル** 何かと大変ですね。

これまでの活動で印象に残っていることはどんなことですか。

**富士池部長** 今、東消防団の女性消防団員は「親子クラブ」という活動をしています。これは保健所に出向いて、1歳未満のお子さんをお持ちのお母さんたちに応急手当の指導をさせていただくものです。

最近では、若いお母さんから子育てに関する質問が寄せられるようになり、女性消防団員が同じ母親の先輩として、自分の体験談を聞かせたりすることで、活動が盛り上がっていることがとてもうれしく、印象に残る活動となりました。

**ダニエル** 少子化の時代ですし、意義のある活動ですね。

松村班長はいかがですか。

**松村班長** 札幌の消防科学研究所に火災についての研修に行った時に、コンセントの回りにホコリがある場合やドライヤーなどのコードを束ねたまま使用した場合に火災につながるなどを目の当たりにして、私たちの日常には、身近なところで火災が発生する危険がたくさんあるということを学んだことが印象に残っています。

**ダニエル** 普段の生活の中で参考になるものですね。「まさかこれが」といったことはありましたか。

**松村班長** はい、それまで電気ストーブの

コードは、足などに引っ掛けて倒したら危ないと思って束ねて使用していたのですが、それが危険だということがわかったので、家に帰って、すぐにコードをほどきました。

**ダニエル** そうですか。さっそく役立ちましたね。

岩田本部長はいかがですか。

**岩田本部長** 入団して4年目くらいの時に野火火災が発生しまして、私は農業をしておりますが、トラクターに乗って作業をしていた時に召集がかかり、現場に向かいました。春のことで風が強く、どんどん燃え広がっていました。また、現場は泥炭地だったもので、消えたと思ってもまた火が出てくるのです。

結局、一晩中、番屋に詰めながら、煙と暑さの中で消防署員の方や同僚の団員とともに消火活動に当たったことが、強く印象に残っています。

**ダニエル** まだ、消防団員としてあまりご経験がない頃ですよ。

**岩田本部長** そうですね。建物火災に出動した経験はありましたが、野火火災は初めてのことで、その恐ろしさと鎮圧の難しさを経験しました。

**ダニエル** 難しい火災ですか…、それは印象に残りますね。

**岩田本部長** 結局は、消火栓からホースを何本も何本もつないで消火に当たりましたが、そのホース自体も焼けてしまうような状況でした。

**ダニエル** それは大変でしたね。

東田団長はいかがですか。

**東田団長** ご両親が留守の間に起こった火災でお子さんが焼死したことがありまして、その印象が強いです。

## 消防団たずねあるき

**ダニエル** 小さいお子さんですか。

**東田団長** はい、まだ小学校にも行ってないお子さんでした。ずいぶん昔のことですが忘れることができません。

それと昭和56年でしたか、3日間雨が降り続いて、いたる所で下水が逆流して、大変な事になったことがありました。いろいろな思い出があります。

**ダニエル** 災害というのは、体験しないとその恐ろしさがわかりにくいようですね。オウの親父も消防士で、いろいろと辛い経験をしたようでした。あまり話さなかったですけど…

皆さん勤続年数も経験も階級もさまざまですから、いろいろなお話を聞くことができました。辛い、厳しい経験をされていますが、地域とのつながりや消防団員として活動する中で、うれしいことや新しい発見もあるんですね。これも消防団の魅力のひとつかもしれません。

**ダニエル** こちらの消防団では、なかなか大掛かりな訓練をしていらっしゃるそうですね。

**東田団長** はい。東区内の北東部に広大な原野がありまして、昭和58年4月には枯草約20haと建物3棟を焼失する野火火災が発生しました。この野火火災を教訓として、平成2年から毎年、豊平川の河川敷で東消防署と連携して、大掛かりな野火火災消火訓練を実施しています。

今年度も5月に実施しました。豊平川から揚水し、多数のホースを延長して、遠距離送水放水訓練を実施しています。

**ダニエル** そうですか。川の水を使って大掛かりな訓練をするわけですね。一度、見て



林野火災訓練に参加している消防団員

みたいですね。

**東田団長** ぜひ、おいでください。

**ダニエル** 他には何かありますか。

**東田団長** 東区内には、札幌市内で唯一の空港である丘珠空港がありまして、毎年、札幌航空局が主催して実施する航空機火災を想定した訓練に参加しています。

今年は飛行場の滑走路路上において、救出されてきた負傷者に応急処置を行い、担架搬送等の活動を実施しました。

**ダニエル** 何かが起こったときのためには、そういった他の団体と連携した訓練というのも重要ですね。

**東田団長** はい、そう考えて参加しております。

**ダニエル** ところで東消防団は有名な雪まつりには参加していないのですか。

**東田団長** 平成21年の「さっぽろ雪まつり」には208万人の方に訪れていただきましたが、実は、東区内にある「つどーむ」というスポーツ交流施設が、雪まつりのサブ会場になっており、つどーむ会場には約33万8千人の方に足を運んでいただきました。

# 消防団たずねあるき

**ダニエル** そうなんですか。雪まつりにサブ会場があるとは知りませんでした。大通り公園だけかと思っていました。

**東田団長** ご存知のとおり、大通り公園の雪像も見事ですが、こちらの会場は、屋外には雪や氷でできたすべり台など冬の遊びを満載したイベントを、東京ドームの約2.6分の1の広さの全天候型ドームの中では天候に左右されずに楽しめるイベントと、いろいろな体験型の催物が開催されます。

東消防団もこの祭典のサブ会場でボランティアとして参加していきまして、外国からきた観光客の皆さんや来場された方々が、雪と触れ合いながらそれぞれの思いや願いを込めて「ラブだるま」と称したミニ雪だるまを作り展示してもらいます。

このだるまの作成に消防団員もお手伝いしていきまして、昨年は6,500個ものだるまを会場内に並べました。

**ダニエル** 楽しそうですね。大通り公園の雪まつりには仕事で行ったことがあります。ディレクターに言われて「次はこっち」「今度はあっち」と動いていただけでした…



ラブだるま

**東田団長** 今年も第61回さっぽろ雪まつりが2月5日から11日までの7日間、大通り、つどーむ、ススキノ（氷の祭典）の各会場で開催され、300基を超える雪像が展示される予定です。ぜひ、いらしてください。

**ダニエル** 大規模な訓練や楽しいイベントでの活動を通して「消防団ここにあり!」ということをどんどんアピールしてください。

**東田団長** 本部長をはじめ、頼りになる団員がたくさんおりますので、ご期待に応えられるようにがんばります。

今回も楽しい対談で、あっという間に時間が過ぎてしまいました。まだまだお話をうかがいたいところですが、それは、次の機会に譲ることにします。

今度は、ぜひ、雪まつりの時にお会いしたいです。

## 開拓精神

北海道は、たくさんの方の入植者の方が開拓した土地柄で、そういう意味では、オラの故郷のアメリカ西部、カリフォルニア州にも通じるものがあります。月並みな表現ですが、開拓精神（フロンティア・スピリット）というところでしょうか。

開拓をするには、一人ひとりにたくましさが必要られますし、ともに行動する人々との連携が必要でしょう。そして、そんな精神は、今も札幌の消防に受け継がれているようです。

皆さんにお伝えしきれなかったかも知れませんが、今回、お話をうかがっていて、東消防団員の皆さんのたくまさを強く感じました。

そして、連携という部分では、消防団員どう

# 消防団たずねあるき

しはもちろん消防署員の方とも上手く連携がとれている、平たく申し上げればとても仲が良いなと感じました。対談に参加していただいた方ばかりではなく、多くの方に裏方として準備や進行に携わっていただきました。おかげさまで、とてもスムーズに対談ができました。

開拓精神がたくましさや連携ならば、それはまさに消防の皆さんを表す言葉でもありますね。

## 終わりに

今回お訪ねした札幌市は、日本でも有数の大都市であると同時に国際的な観光都市でもあります。そして、季節によっては非常に厳しい気候条件となりますが、消防団員の皆さんは、持ち前のたくましさで郷土を守っておられます。

札幌市消防団の皆さん、防災に、訓練に、イベントに、つまりは札幌市のために、これからもがんばってください！



ダニエル氏を囲んで